

輸送経済

THE YUSO-KEIZAI

8/10

平成22年
(2010)
(火曜日)
週刊

第2905号 昭和24年4月23日 (第三種郵便物認可)

運賃・倉庫料金動向

日通総研短観 7~9月期

横ばいか小幅上昇 運賃水準おおむね 下げ止まる見通し

七~九月の予測は、小幅に上昇してマイナス。荷主による運賃水準の押し圧力が緩和するようだ。消費財がマイナスに沈むが、輸送用機械がプラスに上昇。食糧品・飲料、化学・プラスチックがゼロ水準まで戻る。

鉄道コンテナの四~六月は、一~三月比ほぼ横ばいのマイナス。輸送用機械など三業種がプラス、繊維・衣服など六業種がゼロ水準。精密機械など七業種がマイナスを示した。

日通総合研究所(本社・東京、大前隆一社長)の企業物流短期動向調査(日通総研短観)によると、荷主企業の運賃水準を示す「動向指数」七~九月期の見通しは、各輸送機関とも現状維持の傾向が強く、横ばいか小幅の上昇で推移するようだ。表。

一般トラックの四~六月期実績は、マイナス四。業種別では、鉄鋼・非鉄が唯一プラス。木材・家具など三業種がゼロ水準。残り十二業種がマイナス。

内航コンテナの四~六月は、一~三月比五割上京のプラス。輸送用機械など七業種がプラス、食糧品・飲料など六業種がゼロ水準。精密電気機械でマイナスとなった。

七~九月の見通しは、木材・家具、金属製品、輸送用機械がプラスに上昇。全業種では、三割上昇でマイナスとなり、運賃水準はおおむね下げ止まる見通し。

国内航空の四~六月期実績はゼロ水準。七~九月も、横ばい推移で運賃水準の現状維持が続くとみられる。

特積みは下押し し圧力が緩和

特別積み合わせトラックの四~六月は、一~三月比ほぼ横ばいのマイナス四。木材・家具と鉄鋼・非鉄の二業種がプラス。繊維・衣服など三業種がゼロ水準で、残り十業種はマイナス。

また、営業倉庫保管料金の動向指数一四~六月期実績は、一~三月比比べ小幅上昇のマイナス。七~九月は、一割下降のマイナス三。料金は運賃水準の低下が見通しだ。(水谷 周平)

7~9月の各輸送機関運賃と営業倉庫保管料金の見通し(業種別)

業種	一般トラック	特積みトラック	鉄道コンテナ	内航コンテナ	国内航空	営業倉庫保管料金
食料品・飲料	0	0	0	0	0	△4
繊維・衣服	△2	0	0	0	0	0
木材・家具	5	4	0	0	0	0
パルプ・紙	△6	△12	△6	6	0	△8
化学・プラスチック	△3	0	△1	2	0	2
窯業・土石	△5	△11	6	13	0	△9
鉄鋼・非鉄	5	7	0	4	△4	0
金属製品	3	△14	5	6	0	4
一般機械	△2	△3	0	9	4	△3
電気機械	△6	△4	△5	△6	△7	△5
輸送用機械	1	2	12	10	7	△5
精密機械	0	△6	△12	△20	△9	△15
その他製造業	△5	△7	0	0	0	△8
卸売業・生産財	△2	△3	0	8	7	3
卸売業・消費財	△8	△3	0	0	0	△4
合計	△1	△2	△1	3	0	△3

※運賃・料金動向指数は「値上がり」の回答割合-「値下がり」の回答割合で算出
※今回調査は6月に実施。調査対象2,500社のうち1,084社から回答を得た(回答率43.4%)